

(譯文)

下名ノ日露兩國全權委員ハ各本國政府ヨリ相當ノ委任ヲ受ケ講和條約ノ實施ニ至ル迄ヲ有効期限トシテ兩交戰國間ニ左ノ休戰條款ヲ協定セリ

第一條 滿洲並豆滿江方面ニ於ケル兩國軍隊ノ間ニ一定ノ距離(區劃地域)ヲ定ムヘシ

第二條 兩交戰國ノ一方ノ海軍ハ他ノ一方ノ領土若クハ占領地ヲ砲擊スルコトヲ得ス

第三條 海上ノ捕獲ハ休戰ノ爲メニ停止セララル、コトナシ

第四條 休戰期限中増援兵ヲ戰地ニ派遣スルコトヲ得ス其ノ派遣ノ途ニ在ル者ハ日

本國ニ在リテハ之ヲ奉天以北ニ露西亞國ニ在リテハ之ヲ哈爾濱以南ニ送ルコトヲ得ス

第五條 兩國陸海軍司令官ハ前數條ノ規定ニ遵ヒ雙方合意ノ上休戰ノ條件ヲ決定スヘシ

第六條 兩國政府ハ本議定書ヲ實施セムカ爲メ講和條約調印後直ニ其ノ司令官ニ命令ヲ發スヘシ

千九百五年九月一日ポーツマスニ於テ

小村 壽 太郎

高平 小五郎

セルシ、ウ井ッテ

0353

此機會ニ於テ兩國全權ハ何日頃講和條約調印ノ運ニ至ルヘキヤノ模様ニ關シ談話ヲ爲セリ「ウヰッテ」氏曰ク「起草委員ニ於テハ隨分用語ニ關スル議論多クシテ事務ノ進行速ナラスト聞ク用語ノコトハ大抵ニシテ成ルヘク速ニ成案ヲ造ラレタシ本員ハ條約ノ調印期日ヲ可成速ナラシメンコトヲ欲スルノ希望ヲ開陳シ置キタシ尤モ是ハ全ク私事ノ都合ニヨルコトニシテ公事ノ爲メニハ如何様ニモ變更スヘシト雖成ルヘクハ此ノ都合ニ叶フ様致シ度シ即チ本員ハ來ル十二日紐育出帆ノ獨逸郵船カイゼルウヰルヘルムツウアイテ「ニ依リテ歸國致シタシ此ノ船ニ乘リ遅ル、トキハ其ノ後秋分ノ期節ト爲リ海上險惡トナルヲ以テ本員ノ如キ航海ニ弱キ者ハ大ニ困難スヘシ又其ノ後ノ良好ナル便船ハ二週間乃至三週間ヲ待タサレハ得ルコト能ハサルヲ以テ旁該瀛船ニ乘込ミタシ而シテ紐育出發以前シカゴ」へ赴クノ約束アルヲ以テ出發以前約一週間ノ暇ヲ得タシ就テハ四日若クハ五日ノ内ニ講和條約調印ヲ了スルコト、致シ度シ」

小村男曰ク「當方ニ於テモ成ルヘク速ニ調印ノ運ニ至ラシメタキ希望ナルヲ以テ出來得ル丈ケ條約書作成ヲ急カシムルコト、爲サム就テハ條約ノ成案ヲ作ルニ必要ナル撤兵條件ノコトハ未タ協定ヲ經サルヲ以テ至急之ヲ協定スルコト、致シ度シ右ニ就テハ曩ニ當方ヨリ案ヲ提出シタル處貴方ヨリ之ニ對スル對案ヲ提出スヘシトノ約束ニ爲リ居ル儘ニテ未タ其ノ提出ナキヲ以テ至急之ヲ提出セラレタシ」

「ウヰッテ」氏曰ク「承諾セリ就テハ本日夕刻再ヒ會見セン其ノ節再ヒ此ノ室へ集マルコト

、ナサン』ト

ト 小村男曰ク『此ノ次ハ本員等ヨリ貴方ノ室へ出掛クルコト、セム時刻ハ何時頃ニセンカ』

『ウ井ッテ』氏曰ク『光來ヲ得ハ幸ナリ時刻ハ晚餐後即今夜八時半トナサム』
右ニテ散會

0355

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

<http://www.jacar.go.jp>